

食材の調達基準案を踏まえた畜産物に係る対応について

平成28年12月12日

資料4

農林水産省

調達基準案への対応（畜産物）

【現状】

法令等に基づき持続可能性に配慮した畜産の実践

（課題）

生産工程全体を網羅した第三者認証がなく、バイヤー等から見て取組がわかりにくい

東京大会に向けた取組

輸出拡大

【2020東京大会時】

- ・国際水準GAPが一定程度普及
- ・第三者認証制度の普及・定着

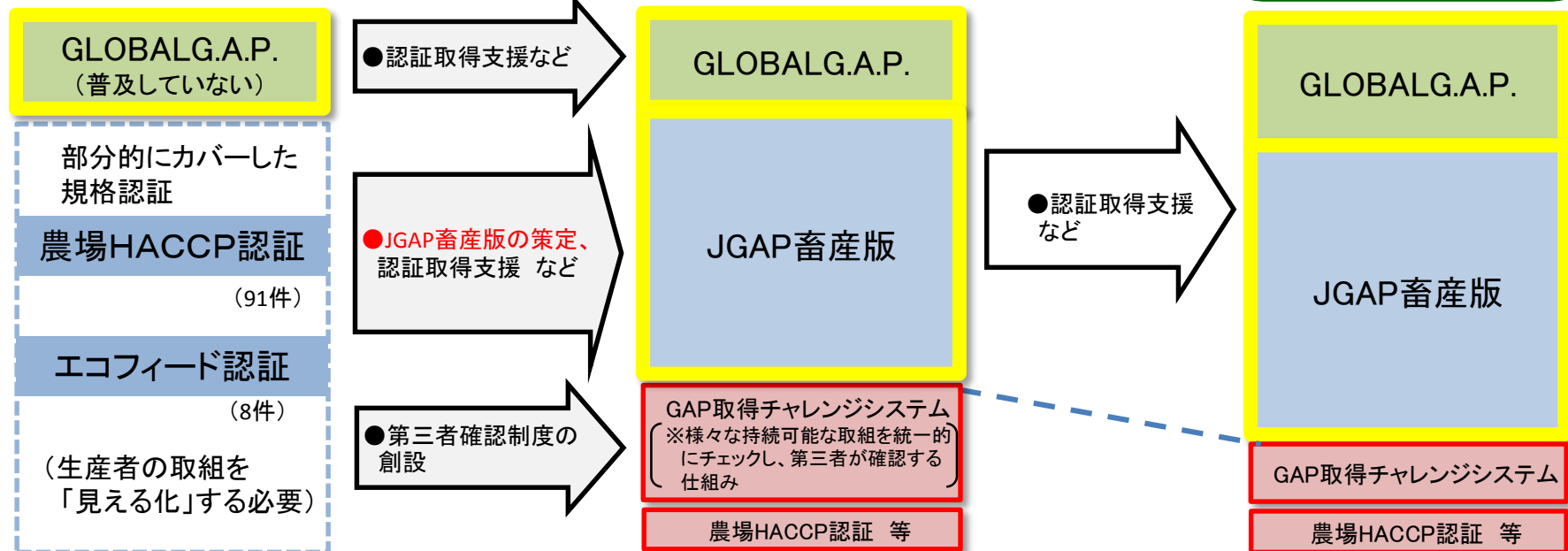
・国産畜産物の東京大会への供給

国際的認知度の拡大

輸出拡大

【レガシー】

- ・畜産物輸出力の強化
- ・輸出・インバウンド消費の拡大



JGAP畜産版の概要

- (一財)日本GAP協会が、これまでの青果物、穀物、茶に加え、新たに畜産物に取り組むこととし、畜産関係の生産者、流通業者、学識経験者等を中心に技術委員会畜産物部会を組織して基準書の開発を推進。
- 平成28年10月以降、技術委員会畜産物部会を開催して基準書の開発を進め、年末までにはパブリックコメントを実施する予定。完成後は、3か月程度の準備期間をとった後、29年度からの運用開始を予定。

<JGAP畜産版の骨子>

- 農場運営、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、人権の尊重及びアニマルウェルフェアから成る畜産物の総合的なGAP
- 乳用牛、肉用牛、豚、肉用鶏及び採卵鶏の5畜種
- 審査・認証のルール等は、他のJGAP基準と共通

GAP取得チャレンジシステムの概要

GAPに関する生産者の受け止め方

⇨ JGAP畜産版(策定中)やGLOBAL G.A.P.にいきなり取り組むのは、生産者にとってハードルが高い

⇨ GAP認証に取り組む前に、農場内で記録やPDCA(Plan,Do,Check,Act)サイクルの定着を図りたい

⇨ アニマルウェルフェアに配慮した飼養方法などについて、現状の取組で良いのかどうか教えてほしい



GAP取得チャレンジシステム (農林水産省補助事業により実施)

- ・GAP取得につながる取組・項目をリスト形式で提示
- ・食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、アニマルウェルフェアなどをカバー
- ・自己点検内容を第三者が確認し、農場名をWebで公開
- ・アニマルウェルフェアを中心に、研修会やセミナーも予定
- ・平成29年度から運用開始の予定

国産畜産物の輸出環境整備事業（新規）

- 我が国畜産物の輸出拡大に向けて、生産構造を改革し、日本版畜産GAPの策定、国際的に通用する水準の認証の取得に向けた取組等を支援する。

【補助率】定額、【事業実施主体】民間団体等

1 日本版畜産GAP策定の支援

畜産物に関するGAP策定を進めるため、検討委員会の開催、国内外の調査、情報収集や基準書作成などの取組を支援。

2 日本版畜産GAP認証等の取得支援

畜産物生産者による日本版畜産GAPやグローバルGAP等の取得を容易にするため、研修会を開催し、認証の取得を目指す生産者の取組を支援。

3 認証農場生産の畜産物流通対策

GAP等取得生産者の畜産物が区分される流通環境を整えるため、検討会の開催や分別生産流通管理などの取組を支援。

4 エコフィード認証の取得支援

今後のインバウンド消費も見据えた、畜産物生産者によるエコフィード認証の取得を容易にするため、検討会や講習会を開催し、認証の取得を目指す生産者の取組を支援。

国産畜産物に対する評価の向上による輸出機会の拡大

持続可能性配慮型飼養管理推進事業

- 近年、民民での取引での付加価値を付けていくために、法令遵守より一段高いレベルでの家畜衛生、食品安全等に関する取組が求められる傾向が世界的に見られる。このため、今後、我が国の畜産物の評価を上げていくために、我が国畜産農家の飼養管理水準を構造的に改革し、システムティックに底上げていくことが必要。
- 日本版畜産GAPの取得が難しい中小規模の生産者等の準備段階の取組となる「GAP取得チャレンジシステム」の策定を予定しており、今後、我が国の飼養管理水準の底上げのため、このシステムの普及・啓発を図る。

現状

日本版畜産GAPの策定

- ・食品衛生
- ・環境保全
- ・労働安全
- ・動物福祉

(法令遵守より一段階高いレベル)

GAP取得チャレンジシステムの策定

日本版畜産GAPの準備段階として位置付け

事業実施

【補助率】定額、【事業実施主体】民間団体等

GAP取得 チャレンジシステム の普及・啓発



日本版畜産GAPは難しいなあ。

チャレンジシステムなら、できそうだ!!

中小規模生産者等

Webで各取組の達成状況、生産者・生産物名が検索可能



食材提供事業者等

各生産者の取組が一目でわかる!

審査員育成



動物福祉に関する飼養管理の指導



日本版畜産GAPの取得生産者の拡大

持続可能性配慮型飼養管理の推進

日本版畜産GAPの取得に挑戦!